

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル603号
電話 03-6256-8082

平成28年度の活動方針

在京花巻人会会長 瀬川 紘一



今年に入って既に5ヶ月が過ぎて時の経つ早さに驚きますが、一第31回在京花巻人のつどいも、もう2カ月後に迫りました。今回は7月17日(日)の開催となり3連休の中になりませんが、会場の方は昨年と同じ御茶ノ水の東京ガーデンパレスです。是非ご参加頂きますようよろしくお願い申し上げます。

行き詰ってしまったのが気になります。一方、政治の世界でも世界的に機能不全が現れ、日本でも自明と思われていた立憲主義がないがしろにされるなど政治のシステムに軋みが見られます。こちら民主主義そのものが問われているのかと心配になります。

このようなかで、最近「多様性(ダイバーシティ)」という言葉がよく聞かれます。もともと生物の多様性とか文化の多様性とか、幅広く性質の異なる個性によって構成される事を意味しますが、今やビジネスの世界や一徳総活躍を掲げる政府の審議会でもこの言葉がもてはやされています。しかし、本来の多様性には、今私達が真剣に考えなければならぬ問題提起が含まれていると思います。何故ならば、多様性の実現にはまず個人の人權と自由が前提であり、異なるを排さず助け合う共同体意識が伴っていることが必要だからです。現在私達が直面している政治や経済の問題も、多様性の実現がその解決の鍵を握っているように思います。そしてその多様性が根付いているところが、他ならぬ「地方」です。「地方」にこそ、経済格差によるダメージを和らげ、多様な価値観を許容する共同体意識があり、個人が容易に議論に参加し政治参加できる共同体が運営されているからです。

さて、このような「地方」の大切さに改めて心を致し、今年度の活動も例年と同様、まずは会員同士の交流・親睦、そして花巻市の活性化への貢献の二つを方針として進めていきたいと思っております。ただ、「ふるさと納税」も定着するなど、ふるさと支援活動は新たな段階に入っています。私

達も、今年度から花巻市への支援の具体的な方策についての検討を始めなければと思います。今年度に取り組む花巻市活性化への貢献の一つは、花巻のまちづくりへの在京の人材の活用、特に様々なアイデアや施策を成功させるアドバイスの提供です。既に市長との意見交換会などで様々な意見が出されていますが、さらに色々な形で提供出来ればと思います。二つ目は花巻への人の流れ、特に移住や長期滞在を増やすために、首都圏からの視点での提案や情報発信に取り組みたいと思っております。

このイベントは今のところ「歩こう会」だけでなく、それに続く魅力あるイベントを企画したいと思っております。又、首都圏の花巻関連イベントは沢山あるのですが、会員への告知が行き渡っていません。今年度は、会報はもとよりメルマガ「熊タイムズ」も活用して、早め早めに会員に告知していきたいと思っております。

詳しい活動計画は、総会でご提案させて頂きます。又、8ページで詳しい説明をしておりますが、在京花巻人の活動をより活発にするために、今年度より役員体制を改編します。活動計画と共に総会でお諮りしますので、是非「第31回在京花巻人のつどい」に参加して審議頂きますようよろしくお願い申し上げます。

会費納入のお願いと納入状況の報告

1. 平成28年度会費納入のお願い

在京花巻人会の運営に多くのご協力を賜りありがとうございます。花巻人会は会員の皆様からのお振込みいただいた会費で運営させていただいております。

会費は会員の親睦を兼ねて7月上旬に開催する「花巻人のつどい」、年3回の「会報」の発行、また年数回の「歩こう会」等に使用させていただいております。

28年度の会費3,000円につきましては同封の振込取扱票(手数料不要)で最寄りの郵便局から下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。在京花巻人会会長 瀬川 紘一

記
口座名義 在京花巻人会
口座記帳番号 00240-6-111794

2. 平成27年度の会費納入のお礼と納入状況報告

27年度の会費納入額は、3月末現在297名891,000円、この他の6名の方から40,000円の寄付をいただき合計931,000円でした。会員皆様のご理解とご協力に感謝しお礼を申し上げます。会計担当 高橋良光・板垣雅子

平成28年度「第31回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時：平成28年7月17日(日)
午前11時～午後2時
アトラクション：金津流横浜獅子躍
会場：東京ガーデンパレス(昨年同)
住所：東京都文京区湯島1-7-5
電話：03-3813-6211
アクセス：JR御茶ノ水駅
聖橋口改札徒歩8分 他

会員の活動報告コーナー

目黒雅叙園

「百段雛まつり

みちのく雛紀行」



在京大迫人会副会長

武井 美砂

故郷 花巻市大迫町のお雛様が展示される、このことで御招待を頂いた。目黒雅叙園「百段雛まつり」は今年で7回目。全国各地のお雛様が展示されてきた。今回は東北のお雛様が一同に介する「みちのく雛紀行」。会期は1月22日～3月6日。初日に伺ったら花巻市大迫町から関係者の



方々が揃いのハッピー姿で応援にいらして嬉し

い。「花巻人形」と「大迫宿場の雛まつり」のお雛様が2つの部屋に分けて展示されていた。普段は花巻市博物館に展示されている人形たち。花巻人形は仙台の堤人形、米沢の相良人形と並び「東北三大土人形」と称されている。江戸時代後期に盛んに作られた。「大迫町はかつて三陸と盛岡を結ぶ街道の宿場町として栄えた地です。葉タバコや絹生産が盛んで江戸や京都と取引を行っていた歴史から、江戸時代からの雛人形が旧家や商家に多く残されています」(説明文より)

「知らなかったわ。おはさまって読むのね」と、説明書きを読まれた御婦人が感心していた。岩手の小さな町にこんな立派な雛人形があったことに、皆さん驚かれています。

目黒雅叙園の「百段階段」の各お部屋は日光東照宮や歌舞伎の舞台を思

わせる職人技を結集した贅沢な作り。人形たちも晴れがましくも緊張しているように見えた。階段を昇りつつ各お部屋に。盛岡町屋旧暦のお雛様。吊るし飾りの繊細な手仕事

事が美しい。宮城は片倉家のお雛様。福島は須賀川は松尾芭蕉が訪れた文人縁の地。戊辰戦争の舞台になった会津若松。江戸時代の俳人市原多代女縁の享保雛(「百段雛まつり」のポスター写真にも)が大迫町の享保雛によく似ていた。「津波に耐えた大正雛」は東日本大震災で被災した大槌町の雛人形。一番胸を打たれたお人形だった。悲しみにくれた人々の心を

どんなにか明るく照らしたことだろう。様々な雛人形たちを見て、その豪華さ道具の細やかさに驚く。それはかつて宿場町だった豪商だったり城下町だった東北それぞれの地の豊かさであり文化を象徴している。そんな歴史を知り、誇らしく感じた。花巻市大迫町では2月19日～3月3日「大迫町宿場の雛まつり」が行われており、観光客で賑わっている。目黒雅叙園の展示を

見た人々が一人でも多く現地に足を運んで下さる事を切に願う。

雅叙園

「みちのく雛紀行」

鑑賞会実施

去る2月23日、在京花巻人会の理事と会員有志20名弱で目黒雅叙園の百段階段で開催されている「みちのく雛紀行」を鑑賞しました。

一行は10時30分にJR目黒駅に集合、百段階段の会場は週日にもかかわらず溢れんばかりの入場者で混み合い、イベントの人気の高さが偲ばれました。武井さんの記事にもあるように、大迫のお雛様が展示の冒頭を飾っており、花巻出身者としては何とも誇らしく鑑賞をスタートすることが出来ました。

花巻関連では、何と云っても花巻人形のお雛様が印象深く、1～2体を見る機会があっても雛段に数多く並び花巻人形を見ることなど経験のない事で、まさに圧巻でした。花巻人形は、東北三大土人形の一つとして高く評価されているこのことで、その人形の素晴らしさも頷けました。



もう一つ花巻関連では、大槌で津波に流された大正雛が回収されて汚

れが残ったまま展示されています。これは、在京花巻人会の会員で昨年9月亡くなられた松崎セイ子さんのお雛様ということで、私達にとっては特に感じるものがありました。松崎さんご夫婦はもともと大槌在住でしたが東日本大震災で被災し、一時セイ子さんゆかりの花巻市に避難されており、その後横浜に移ら

れています。旦那様の豊司さんが、奥様のセイ子さんのふる里を思う心を展示説明文に書いておられ、改めてセイ子さんを偲びました。(編集部)

節分の日に

「金津流丹内獅子躍」

理事 板垣 雅子
今年2月3日の節分の

日に、上京して以来もずっと鹿踊りを観ていないと言つ高校時代の友人と、昨年帰郷した際に花巻温泉で久しぶりに鹿踊りを観てとても感動したと言っていたもう一人と、サンプラザ前で観るのは初めての私の3人が中野で集合しました。

在京東和町友会・名誉会長の佐々木幸三さんが、この金津流獅子躍を縁あって梅照院に紹介し、以来20数年続いているという話を2～3年前に当会報に寄稿して下さっているので詳細は省略しますが、今年はその25回目でした。

獅子躍の人達は午前中、新井薬師の梅照院で有名な豆まきの後奉納舞を済ませ、袴を付けた関係者と共に行列を組み太鼓を敲きながら中野まで移動して来るのです。今年は花巻の物産も出ると聞いていたので楽しみにしていたのですが、取り止めになったとかで何も残念。

行列には赤や青のお面と衣装をつけた鬼も数匹いて支度が整う間、観客の中の小さい子供たちに話しかけては、怖がられながらも待ち時間を退屈



しないように気を配っていました。この鬼たちは某大学のプロレス部の学生たちで、代々引き継いで節分には必ず来てくれるのだと、この日わざわざ熱海から駆け付けて来た佐々木さんに伺いました。

6匹の獅子と雌獅子が雄獅子を中心に長いささらを地に打ち付け、時に円になったり並んだりしながらの太鼓の音はともも力強く響き、私達も暫し時を忘れて観入りました。演舞が終わり、続けて撮影タイムになった時には驚きましたが皆さんとつても喜んで、勿論私達も大喜びでどっかりと座った雄獅子を真ん中に、写して頂いたのは言うまでもありません。

尚、年男・年女の希望

者には梅照院でお払いをして下さるそうですので、次回からは折角ですからこの年の悪しきものを祓って頂いては如何でしょうか。

平塚市

「花巻物産展」

副会長 島山 秀

去る2月18日～21日の4日間、友好都市平塚市で恒例の花巻物産展が開催されました。

相変わらず人気の高い金婚亭のキムチや農協のりんごはもちらんの事、美味しい花巻の食材に多くの市民が来場され賑わっておりました。応援に来ていた平塚市の職員のお話ですと新年早々から花巻物産展は何時から始まりませんかと問い合わせがあり多くの市民が楽しみにしておられるとの事でした。

又、初めて花巻物産展の応援にゆるキャラ『フラワーロール』ちゃんも応援に駆け付け、小さな子供達の人気の的になっておりました。ちなみに『フラワーロール』はフラワー(花)ロール(巻)から命名されたものだそうです。

人気の抽選会も最終日に特賞の花巻温泉一泊旅行が出て盛り上がりおりました。



花巻商工会議所のゆるキャラ

**花巻イーハトーブ大使
意見交換会開催**

去る1月18日、花巻市の関係者とイーハトーブ大使との意見交換会が千代田区一ツ橋の日本教育会館で開催されました。

この意見交換会は、花巻市の観光事業取り組みの参考にするのを目的としています。各大使からは多くの意見が活発に出されました。

午後4時から始まった意見交換会では、まず上田花巻市長から挨拶があり、当面の市政の課題について説明がありました。その後、高木商工観光部長から前回の意見交換会の発言内容と対応状況が説明され、さらに「市勢ハイライト2015」や「2017花巻トピックス」、「世界に羽ば

たく花巻産」などの説明がありました。又、花巻市が昨年12月に策定した「人口ビジョン まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての説明があり、花巻市の中長期の将来ビジョンであることから参加者から強い関心が寄せられました。

各大使からは活発な意見が出されましたが、特に印象に残ったのは人口減少対策とも関わる問題として、女性が子供を産み育てやすい環境整備が急務との指摘でした。しかし、上田市長のお話では、花巻市も他の自治体同様産科医不足により、病院の産婦人科の設置が難しい状況とのこと。市長も自らこの問題の打開に懸命に動いているとのことですが、事態の改善が期待されるところで

5時30分からは、日本教育会館内の喜山倶楽部で懇親会が催されました。賢治の「雨にも負けず」に曲をつけて歌っているイーハトーブ大使のブ口歌手宇佐元恭一さんが参加されて歌唱を披露、大変好評で拍手を浴びていました。最後は、

やはり大迫のイーハトーブ大使、元法政大応援団長の菊池裕さんのエールで締めとなりました。

(編集部)

**岩手県人連合会
「新春懇談会」に参加**

副会長 高橋 良光

県人連合会による新春懇談会が1月23日(土)日暮里駅近くのホテルラングウツドで、県連の役員・来賓 各ふるさと会等170名が参加し開催されました。

会は正午から案内が始まり、楽しい雰囲気の中で行われました。県連合会瀨川会長の挨拶では東



日本大震災の復興状況の話の中で、丸5年が過ぎようとしているが仮設住宅住いの人も多く、復興にはいまいちの感がある。又、冬季国体ではスケート競技が1月27日から盛岡中心に、スキー競技が2月20日から東北の安比高原スキー場を中心に行われるので、開会式では選手を暖かく歓迎する為色々なアトラクションの練習を行っているとのこと。秋の国体は10月1日(土)から11日(火)まで県内全市町村で行う予定で、花巻市でもサッカー、ボート、バレーボール等10競技以上行われます。東京からも岩手国体の応援に参加しましょうとの呼びかけがありました。《県国体事務局によると冬季国体の順位は天皇杯4位、皇后杯8位の成績》

懇親会では盛岡で活躍している民謡歌手2名によるアトラクションが行われ、岩手の民謡を堪能しました。2時間があつと云う間に過ぎ、恒例の県人連合会の歌を皆で歌って締めとなりました。尚、県連の集いは6月5日(日)です。

《はなまき あれこれ》

花巻市合併10周年記念式典が催される

去る2月6日、一市三町の合併により新しい花巻市が誕生してから10年の節目を迎えるのを記念して、ホテルグランシェールで記念式典が開催されました。合併は平成18年1月でしたが、花巻市はそれから10年着実にまちづくりの歩みを続けてきました。

当日は、市民や来賓、関係者など約270人が出席、これまでの10年を振り返るとともに、さらなる飛躍へ向けた第一歩を踏み出しました。上田市長は「地域で知恵を出し、まちづくりを進める時代となりました。若者や移住者による従来とは違った視点によるまちづくりも進んでいます。合併から10年の歩みを検証しつつ、市民の皆さまのご意見を頂きながら、市の発展を目指してまいります」と

式辞で述べました。

式典に続いて、合併10周年の記念映像を上映した後、NHKアナウンス室エグゼクティブアナウンサーでイーハトーブ大使の伊藤博英さんが公演。「花巻弁は標準語よりもとてもきれいな言葉。方言の聞こえるまちが大きな魅力になる。訪れる人を花巻弁で温かく迎えてほしい」とこれからのまちづくりに期待を寄せました。
(広報はなまきより)



2015花巻市勢ハイライト

このところふる里花巻市が活発に動き出しているようで嬉しい限りですが、遅まきながら昨年1年を振り返って、市の動きを「広報はなまき」から抜粋し報告したいと思います。

まずは、「記念館リニューアル」がありました。4月25日には「宮澤賢治記念館」、4月28日には「高村光太郎記念館」がリニューアルオープンされました。どちらの記念館もより魅力が高まり、大幅に来館者が増加しているとのこと。特に宮澤賢治記念館は8月1日に入館700万人を達成しました。

次に、「地域産業の活性化」です。花巻産の農産物の販路拡大とブランド化の推進、地場企業への支援、企業誘致活動、プレミアム商品券による消費喚起など、市内産業の活性化に積極的に取り組みました。農産物の販路拡大では上田市長自らが紅いわた（りんご）をトップセールスしPRしました。又、プレミアム商品券は、市内で約11億円の消費が喚起されたとのこと。市と（株）セブーン・ジャパン、（株）イトーヨーカ堂との地域活性化包括連携協定の締結（12月3日）も、今後の成果が大いに期待されるどころです。

三つ目は、「まちづくりに新たな力」が幾つか生まれたことです。まず、ふるさと納税に対して昨年4月から市の特産品や農産物などを贈りはじめて納税額が急増、地域づくりに活かされ始めたこと。次に、リノベーションまちづ

くりを担う（株）花巻家守舎が設立されたなど市街地活性化が期待されること。又、地域おこし協力隊（5人）が着任し活動を開始したこと、等が挙げられます。

四つ目は、「花巻への移住・定住の促進」です。人口減少の流れに歯止めをかけ、将来にわたり「住み続けたい」と感じるような魅力あるまちにしていけるための、各種支援制度を創設しました。U・I・Jターン者などへの就業奨励金交付制度を創設と花巻市への移住・定住のための住宅取得等補助金交付制度の創設。さらには、空き家所有者と定住を目的とした利用希望者を繋ぐ「空き家バンク制度」が創設されました。

五つめは、「人が集いまちに活気」が生まれました。市内各地で様々な催しが開かれ、多くの人が集い・交流しました。7月には「うすゆき草サミット in はなまき」が開催され、9月には花巻祭りで神輿の数でギネス世界記録達成、10月には神楽の日に入場者1万人を達成しました。又、ベルンドルフ市と花巻市友好都市提携50周年の記念行事も大迫を中心に盛大に執り行われました。

以上の他に、事業では10月27日に策定された「花巻市人口ビジョン、花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が注目されます。又、出来事としては、「花巻東高校の甲子園出場」、行事では、「富士大学開学50周年記念行事」などが特筆されると思います。

(広報はなまきより)

2016花巻トピックス

今年も既に残り半年となってしまいましたが、ふる里花巻が今年2016年に力を入れて開催する三つのイベントについてご紹介したいと思います。

まずは何と言っても、「宮澤賢治生誕120周年記念事業」です。宮澤賢治記念館、同童話村、イーハトーブ館にて、4月～10月の3連休と8月21日～28日に施設のライトアップ、ナイトミュージアム（夜間の開館）を計画中とのこと。さらに賢治生誕120周年を記念して各種のイベントや催しものを計画中とのこと。

次に「全国神楽大会ハヤチネ2016」の開催です。期間は9月3日～4日で会場は愛宕山公園の特設会場です。岩手県内は勿論、東北各地に伝承されている神楽の公演、さらにはレセプション、交流会、模擬店なども計画中のことです。

最後は、「希望郷いわて国体 希望郷いわて大会」です。

岩手での二度目の開催となる今年の国体は本大会が10月1日～11日に開催されます。岩手県各地で様々な競技が開催されますが、特に花巻市はスポーツ振興に力を入れており施設も充実しているところから、バレーボール、ソフトボール、サッカー、野球、ボート競技、ハンドボールなど多くの競技が実施されます。

なお、冬季大会は既に1月27日～30日に行われ、花巻市では石鳥谷アイスアリーナでアイスホッケー競技が行われ熱戦が繰り広げられました。成年の部には花巻出身の矢百板正人選手がディフェンダーとして出場し活躍しました。大会では、多くの市民の皆さんに競技スタッフとしてお手伝いをいただいたほか、花巻ならではの「おもてなし」で全国から結集した選手や応援団の皆さんを歓迎しました。

(花巻市の資料より)

復興支援ショップ「結海」が3月で閉店

東日本大震災の際に縁が出来た、大槌町・五城目町（秋田）が花巻の金婚亭（株式会社道奥）さんのご支援でスタートした交流産直の店「結海」が3月一杯で閉店しました。

東日本大震災の発生当時、大槌町の波板観光ホテル（現在は「三陸花ホテルはまぎく」）に宿泊していた秋田五城目町の老人会の皆さんが、ホテルの従業員達の懸命な努力で救助されました。これがきっかけとなり大槌町と五城目町の交流が始まりましたが、この事を知った（株）道奥の阿部社長のご尽力で、両町の間の花巻市西宮野目に交流産直店「結海」がオープンされ運営されてきました。

「結海」では、三陸・五城目・花巻の特産品を販売する他に、花巻市内に避難している皆さんの手芸品も販売しておりました。又、お茶会などのイベントも企画して被災者

と花巻市民との交流にも力を入れてきました。特に毎月11日には、あら汁を振る舞うなどして花巻市民と震災の復興への思いを共有してきたとのことです。

なお、平野店長からは毎月11日のイベントは今年2月11日が最後になると伺っていましたが（3月11日には三陸で震災から5年の慰霊祭が行われるため）、当日イベントに参加された花巻の友人からは大勢の市民の方々が参加され大変盛会だったとの報告がありました。

東日本大震災から5年、「結海」は当初の役割をしっかりと果たして閉店となりました。改めて「結海」の運営を通じて（株）道奥が果たした復興支援に心より拍手を送りたいと思います。（編集部）

第1回花巻国際平和音楽祭



第1回花巻国際平和音楽祭が、昨年の12月8日花巻駅近くの「なはんプラザ」で開催されました。実行委員会は、愛宕町妙円寺の林正文さんを委員長とする方々で、出演者は国際の名にふさわしく台湾、韓国、ロシア、日本の、いずれも国際舞台の経験のある方々でした。

最初に登場されたのは台湾の「日本芸術研究会」で日本語の正しい発音と日本歌曲の精神の探求を目的として日本歌曲の紹介、普及をされているとのことでした。

歌われたのは「浜辺の歌」「雪」「かあさんの歌」「雪の降る街を」そして石川啄木の「初恋」、いずれも私達日本人にとっても定番というところで親近感もてました。ロシアのピアニストのコジエバードフさんは何度か来花されている方で私も大好きなピアニストで、定評のある方で、新聞の評では「色彩豊かにダイナミックに演奏された」と書かれてありましたが、ラフマニノフのプレリユード「鐘」、チャイコフスキーの「四季」、しみじみと感じ入りました。古川精一さんと韓国の金智瑛さんの二重唱ドンジョバンニの「お手をどうぞ」も圧巻でし

会員 照井 潔子（在花巻）

たね。

第2部は花巻北高の吹奏アンサンブル、若さ溢れるアンサンブルと花巻農学校の春日流鹿踊り、若者達の切れのある足捌きに改めて若さって素晴らしいと思いましたね。花巻祭には花巻農学校の鹿踊りの追っかけをやってしまう私、終わってから思わず声を掛けてしまいました。



“素晴らしいかったですよ”と。

最後は合唱曲「鹿踊りのはじまり」は東京理科大音楽部OBの23和音の会と花巻の男性合唱との合唱で伴奏は花巻市の職員の林秀さん多士済済の方々出演で圧倒されました。

素晴らしい時間を楽しめたことに感動し、これから2回、3回と続きませう願うばかりです。

「東北横断自動車道釜石秋田線」遠野ー宮森間開通

昨年12月5日、国が復興支援道路と位置付ける「東北横断自動車道釜石秋田線」の遠野ICー宮森IC間、約9kmが完成した。同日は、宮森IC付近で開通式が行われましたが、安倍総理はじめ達増知事ら沿線自治体関係者、地域住民ら約160人が出席、開通の意義の大きさを物語る開通式となりました。

今回の開通で釜石ー花巻間約80kmのほぼ8割の約63kmが使用可能となり、花巻市にとって三陸がいよいよ近くなりました。地域の復興・創生を図る上で、大きな役割を果たすことが期待されます。

残るは遠野ICー住田ICの11kmと釜石西ICー釜石ジャンクションの6kmですが、平成30年には完成する予定とのこと。平成31年（2019年）には、ラグビーのワー

ルドカップの試合が釜石で開催されることもあり、完成が待ち望まれます。（いわて復興だより）より





高校野球で花巻東高校の活躍があり、大学野球では富士大学の活躍があり、今や花巻が「野球の市(まち)」の観を呈しています。東高が春のセンバツで準優勝を飾った年に高瀬善平さんが「花巻野球の事始め」とでも言つべき一文を寄稿され

花巻野球の思い出

花巻人会 顧問

高瀬 善平

岩手に春を呼ぶ旋風を巻き起こした花巻東高センバツ甲子園準優勝おめ



昭和20年頃の校舎全景

ています。昨年の夏の高校野球県予選では東高、花巻、南高がベスト16、北高も3回戦まで進み、花巻野球の意気を示しました。そこで改めて、高瀬さんの「花巻野球の思い出」を掲載させて頂こうと思います。

どう御座います。

若手県勢・特に県内見

前出身の選手が中心となりよくここまで来たもんだと新しい時代をきり開いた選手の皆さん、関係者に敬意を表します。

敗戦直後の昭和21年の夏、戦争で中断していた甲子園野球は7年ぶりに復活しました。私が旧制花巻中3年のときです。まさに敗戦の混乱時代で物資がなく練習をはじめ

るにも道具はなにもなかったのです。それでもどこからかもってくるのかグローブだけは持参して集まったのです。しかしボール、バット、スパイクなどあるわけもありません。スパイクの代わりに農業用地下足袋をはきスライディングの練習をはじめたものでした。実は、そんな時、私の生家の裏の倉庫に「鍛冶町少年野球倶楽部」ときれいな筆で書かれた、ひと一人ぐらい入る大きな木箱があったのです。戦争中保管されてお



昭和22年頃の上町

むっていたのでした。私が木箱をこじ開けるとカビだらけのグローブ、バット、そしてHANAMAKIのユニホーム、それに5、6個の破れたボール、があるではありませんか!!

手入れしていただきましたし使い始め、ボールは縫っては使い、縫っては又使う状況の敗戦直後、私たちの野球練習だったのです。

その木箱はだれが作ったものだったでしょうか? それはあのまろやかな美しい日本語で「事実小説より奇なり」とはじまるTV番組、私の秘密で一世を風靡した名司会者、大アナウンサー高橋圭三さんが少年時代に、お小遣いを出し合い作ったチームのものだった。私よりひとまわり先輩の圭三さんは「ケッチョさん」といわれ、指導力もあり、キャプテン兼マネージャー監督だったのです。

早朝、花巻農学校の校庭で練習するのが日課で、朝寝坊には、夜寝るとき足にひもをむすび窓からそのひもを吊るしておけば、翌朝、そのひもをひっぱり起してやるのです。テレビも携帯電話もない時代です。それも圭三さんのアイデアでした。

私は幼児のとき圭三さんの自転車の後部に乗せられて日居城野グラウンドに行き、バットボーイをしたことをかすかに覚えて

います。ラジオの実況中継もなかった47(昭和22年)、48年(同23年)、県勢は

奥羽大会に出場。甲子園まであと一勝のところまで行ったものの、二年連続で敗退したこともありました。

ただ話が野球から離れますが、野球では甲子園には行けなかったものの、これも圭三さんに教えられたスキーでは県で優勝、昭和22年の冬の国体(野沢温泉スキー場で開催)に花巻中学(旧制)チーム3名のうちの一人として出場しました。冬はスキー、夏は野球に熱中した少年時でした。

その8年後、私はNHKの記者として甲子園球場で春、夏の大会を3年連続で取材することになります。早稲田実業の王投手(プロ野球の前ソフトバンク監督)が活躍したころでした。

いつか、この甲子園で、県勢が日本一になる日が必ずやってくる、と待ち望んでいたら、花巻

現在、高瀬さんは85歳、ご健在で昨年の東京桜雲会の総会にご出席され乾杯の音頭をとられま



初出場での小原主将の選手宣誓



昭和38年 花巻北高初甲子園の入場行進

東があれよあれよという間に勝ち上がった。「明日の決勝戦は楽しみみたい」と話していた菊地雄星投手。今年の夏も新たな歴史をつくってほしい。センバツ決勝の余韻が残る4月11日は圭三さんの七回目の命日でした。(東京都世田谷区、元NHK海外特派員 78歳)

現在、高瀬さんは85歳、ご健在で昨年の東京桜雲会の総会にご出席され乾杯の音頭をとられま

した。花巻人会の顧問としても色々アドバイスを頂いています。

ところで編集子は小学校3年頃(昭和23年頃)四日町に住んでいて、よく歩いて日居城野に行き、新制花巻第一高等学校(この年に学制改革で旧制花巻中学から改編、その後花巻高校となり更に北高と南高に分かれる)の野球部の練習を見に行ったものでした。

その時にサードを守っていたのが私の憧れの高瀬さんでした。子供心にも印象的だったのが高瀬さんが笑った時の八重歯が今でも目に浮かびます。それから15年後の昭和38年、花巻北高校は念願の甲子園初出場を果たすことになりました。

あの頃四日町を中心とするこつち町でも少年野球が盛んで、父親の柔道着のズボン等を利用した手作りのユニホームで練習した記憶があります。グラウンドはあつち町では農学校だったようですが、こつち町では早朝花巻のグラウンドを使わせてもらい練習したのを憶えています。

(編集子・瀬川)

花巻市人口ビジョンと花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略

「市勢ハイライト2015」の記事でも紹介しましたが、昨年10月27日に「花巻市人口ビジョン 花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。花巻市が高齢化・人口減とどう戦い、地方創生と活性化のためにどのような政策を執るべきかを述べたものです。会員の皆さんにとっても関心のあるテーマだと思いますので、1月18日に東京神田で開催された「イーハトーブ大使意見交換会」で花巻市から頂いた資料からご紹介させていただきたいと思えます。

まず「花巻市人口ビジョン」です。

花巻市の人口の増減の推移は、自然増減、社会増減ともに減少傾向にあり、平成7年から平成25年までの18年間に自然減5,497人と社会減1,055人、合わせて6,552人の減少となっています。平成19年以降は毎年600人～900人弱程度の減少が続いています。

合計特殊出生率は、昭和59年の2.12をピークに低下傾向が続きましたが、平成21年以降は下げ止まり、平成25年には1.46まで回復しています。しかし、人口置換水準とされる2.12に対しては大きく下回っています。花巻市の人口移動を見ると、男女とも15～19歳から20～24歳にあたる修学・就職時期に著しい転出超過のピークがあり、男性は700人、女性は600人弱が転出超過となっています。これが、20代の女性の未婚率の高い原因となっていると共に、15歳から49歳の女性人口の縮小をもたらしており、少子化が進展する原因となっています。

このまま人口減対策への取り組みを行わず、出生は現在のまま人口移動も低減し推移した場合、花巻市の人口は2015年に99,135人が、2040年には75,153人、2060年には56,569人(現在の人口の57%)となってしまう。そこで花巻市は将来人口の目標を定めて、「花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、的確な人口増加策・転入人口増加策・転出抑制策を展開することにしました。

花巻市の将来人口(人口ビジョン)の設定は、まず合計特殊出生率を2030年に1.8、2040年には2.1に目標を定めました。そして、15～39歳の若者をターゲットとする流出防止、U・I・Jターンの促進、又、それぞれの年齢階層の移動率を改善することによって、20代の若者の流出超過の抑制、30代の若者のU

I・Jターンの促進を図ります。これによって花巻市の将来人口を、2040年には82,600人、2060年には73,500人程度にすることを目指します。

次に「花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。

総合戦略の基本目標は、

1. 花巻市にしごとをつくり、安心して働けるようにする
2. 花巻市への新しい人の流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 現代に合った地域をつくり安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

これらの基本目標を達成することにより、①人口減少に歯止めをかけ、②「東京一極集中」を是正し、③地域の「稼ぐ力」を引き出す、という中長期展望を達成するとしています。

これら基本目標にはそれぞれ数値化された目標があり、それを実現するためにそれぞれ施策の体系として幾つかの重点方針が定められています。例えば、1の「花巻市にしごとをつくり、安心して働けるようにする」には、重点方針①として「力強いものづくり産業の振興」、②として「インバウンドの推進と観光コンテンツの充実」、③として「地域資源を活用した魅力ある農林業の推進」、④として「産業を支える労働力の確保」が挙げられています。それぞれの重点方針を全て紹介するには紙面が足りませんので、今回は2～4の基本目標の重点方針は割愛します。これは別な機会に紹介させて頂きたいと思えます。

さらにこれらの重点方針には、全てに基本目標ごとに括られた政策パッケージが2～4付帯されており、それぞれに具体的な事業計画が提案されています。

以上、花巻市は今後この人口ビジョンと、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて市政に取り組んでいくものと思われます。地方衰退が叫ばれる中、私達のふる里花巻が元気を取り戻し、生き残っていくための人口ビジョンと総合戦略です。是非、皆さんと暖かく見守るとともに、私達に何が出来るかを模索していきたいと思えます。

(花巻市の資料より)

在京花巻人会の新役員体制について

会長 瀬川 紘一

在京花巻人会も他の在京ふるさと会と同様に、高齢化による会員の減少や役員希望者の不足などの問題に直面しています。

そこで、会員の皆さまに会の活動を支援していただきやすくするため、様々な役割の役員を設ける新たな役員体制をスタートさせたいと考えています。これによって、会員に気軽に役員になっていただくことで役員不足を解消し、より魅力的な活動が可能となることで会員増に繋がれるのではないかと願っています。

これまでの役員としては、「会長」「副会長(複数名)」それに「理事(20名以内)」と「監事(2名)」が会則(第5条)で定められています。これに加えて、会則には「顧問」と「参与」を置く事が出来るとされています(第6条)、

但しその役割についての記載はありません。

そこで、「会長」「副会長」「理事」「監事」の役員はこれまで通りと致しますが、「顧問」と「参与」については、新たに役割を決めて、「参与」の方も名称を変えて新しい名称にしたいと思います。「顧問」は、会の運営に大所高所から助言をいただく役割、「参与」は「常任幹事」とし会の活動の実施に際しご支援・ご協力をいただく役割とします。この「顧問」と「常任幹事」については会則の第6条を改訂し、それぞれの役割も定めた新たな条項と致します。

この役員体制の改編とそれに伴う会則の改訂については、来る7月17日の総会において会員の皆様にお諮りしたいと考えています。

「平成28年度 花巻人の在京花巻人のつどい」の出し物について

今年、第31回となる「在京花巻人のつどい」が7月17日(日)11時より開催されますが、交流会の部の出し物は、横浜在住の吉田泰久さんが率いる「金津流横浜獅子躍」と決まりました。吉田さんは岩手の出身ではないのですが、獅子躍に強い興味を持ち江刺市(現奥州市江刺区)に出向いて教を請い、横浜獅子躍を立ち上げました。今では、多くのメンバーを擁し活発に演舞を行っています。今回、在京花巻人の集いでの演舞をお願いしたところ、心良く引き受けて頂きました。会員の皆様には是非期待していただきたいと思っております。

ところで、一市三町合併前の旧花巻出身者にとってお馴染みは春日流鹿踊ですが、今回は金津流獅子躍という事で馴染みの無い方もいると思われるので、その由来や特徴などについて少し解説しておきたいと思っております。

花巻では馴染みが無いと書きましたが、実は東和町の谷内の産土丹内山神社の神事芸能として190年ほど前から躍り継がれている「金津流丹内獅子躍」があります。今回の会報でも紹介していますが、毎年節分会に上京し中野区の

新井薬師梅照院で演舞し、その後中野サンプラザ前でも多くの観客の前で演舞しています。

さて、金津流獅子躍ですが、まず獅子躍と鹿踊とは字は違っていますが、他の流派の鹿踊と同義語です。野生の鹿の群れ遊ぶさまに人間の感情を移入し、五穀豊穡、悪霊退散を祈り、供養と慰霊の精神を盛り込んだ踊りで、各地の神社仏閣で踊られています。

金津流獅子躍は、岩手県では旧江刺市の梁川の地に長く伝承されていますが、宮城県の旧宮城郡国分松森村が発祥地と言われています。春日流と同じ「太鼓踊系」(一方は「幕躍系」で踊り手とは別に祭囃子の演奏者がいる)と呼ばれていますが、この春日流鹿踊の方は逆に花巻市東和が発祥の地とされているのが興味深いところです。

いずれにしろ、金津流横浜獅子躍も迫力ある演舞が期待されます。是非7月17日の「在京花巻人の集い」に参加されてお楽しみいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

第18回 岩手県人連合会 ゴルフ大会のご案内



恒例の本大会は、県人連合会活動の中枢をなす行事の一つで毎年160余名の参加者で盛会に行われております。

訃り言葉が懐かしい親睦交流、楽しいプレーが微力ながら古里に元気を促す機会でもあることを望むところです。お仲間を誘いあって、是非ご参加をお待ち致しております。

記

開催日 平成28年10月12日(水)

コース 紫カントリークラブ



千葉県野田市鶴奉463-1 Tel 04-7124-1177 ~ 9

諸費用 17,500円(プレー費・12,500円 参加費・5,000円)

セルフプレー・ワンドリンク 昼食付き

その他 募集人数・160名 新ペリア方式(ネット)

【お問合せ：申し込み先】 在京花巻人会：高橋(千)

TEL・FAX：048-596-2013

E-mail：kuma.t26@hurusato.me

在京会&古里の情報満載

購読希望者を募ってます



熊タイムズ



発行：在京花巻ふるさと会

メールアドレス kuma.t26@hurusato.me

メルマガ・熊タイムズを配信して一年余、会員の皆様

からの情報の提供や、ご意見~ご要望等に感謝致しております。

「熊タイムズ」を通して在京広域の「在京花巻ふるさと会」会員間の親睦交流を密にし併せて古里との連携を図る一助になればと願っています。

身近な楽しい情報誌です、この機会に是非ご一報下さい
配信ご希望の方は【配信希望とご記入の上・在京会名
・氏名・電話番号等】記入、上記アドレスまでお寄せ下さい。
(お預かりのメールアドレスは当目的以外には使用しません)